

ニュース



さよなら原発

第45号 2016. 7. 11

発行：さよなら原発ひたちなか市実行委員会

連絡先：茨城県ひたちなか市馬渡 2824-63 佐藤英一 (TEL:029-273-4775)

東海第二の運転延長・再稼働 いよいよ迫ってくる

高浜原発 1、2 号 全国初の運転延長

東海第二原発よりも 3～4 年古く、41～42 年たつ関西電力の高浜原発 1 号、2 号(福井県高浜町)が 6 月、全国で初めて運転延長が認められました。来る 11 月に運転 40 年になる関西電力の美浜原発 3 号(同県)の認可が予想され、その次は東海第二原発です。

大事な原子炉「耐震試験」先送り

高浜原発 1、2 号の審査は、昨年 4 月の運転延長申請後、先行する他の原発審査をわきに置き超スピードで、認可期限(今年 7/7)に間に合わせました。また、基本となる原子炉の耐震試験を行わないで先送りしたほか、燃えやすい電気ケーブルでも難燃性シートで包めば OK としズサンな審査です。

* 原発の運転期間は原子炉等規制法で上限 40 年。原子力規制委員会の認可を受け 1 度だけ 20 年延長できますが、老朽原発にひそむ危険を見逃さないよう、審査はとびっきり慎重であるべきでしょう。

再稼働ストップの裁判も

住民は当然、こんなでたらめな運転延長認可を違法無効とし、裁判に訴え出ています。

* 水戸地裁はじめ全国で 13 件の裁判が進行。適合性審査に合格した高浜 3、4 号では、大津地裁(滋賀県)の判決により運転できなくなっています。

東海第二原発は、このままいくと規則で定められている 2017 年秋に運転延長を申請し、2018 年 11 月までに延長認可となるでしょう。

現在、その前提となる新規制基準適合性の審査中で、ピッチがあがっています。(下図)

図 規制委員会の審査会合の回数



古い「東海第二原発」は、廃炉が一番！
◇原発でできた放射能は、消滅する技術がなく、何万年も脅威です。
子どもたちに、安全な未来を
◇原発廃炉へ、廃炉技術を磨くことこそ重要です。

古い東海第二原発で、また事故

6 月 2 日、高濃度放射性廃液漏洩事故を引き起こしました(裏面に関連記事)。最重要な原子炉制御棒のガイドローラ剥脱、ボヤ(発煙)などと事故が絶えません。

老朽化でどこに危険が潜んでいるのやら、誰にもわからないでしょう。

どうすれば原発のない地域の将来を
選び取れるのか

地震の揺れ予測と、津波の圧力に新知見

…地震や津波の科学はなお発展途上を物語る……

地震の揺れ予測

垂直の断層面がずれて地震を起こした場合、今までの予測よりも 3 倍も激しい揺れになる。熊本地震を調べた島崎邦彦(元原子力規制委員会委員長代理)が明らかにし、原子力規制委員会も受け入れました。

防潮堤にかかる津波の圧力

原子力規制庁が昨年 10 月に発表しました。

ひたちなか市

東海第二原発への 声

声

皆さんの **声・つばき**
お寄せ下さい。
TEL/FAX:029-273-4775

放射線治療専門家 西尾正道氏講演会
「これからの健康被害」
放射線被ばく、遺伝子組換え食品などを学ぶ。

- ・ 7月16日(土) 午後1時開場
- ・ ワークプラザ勝田 大会議室
- ・ 資料代 500円

小出裕章先生の講演会があります。

小出裕章さんは、原子力の平和利用を夢見て原子核工学科に入学したものの、原発の危険性に気づき、原発を止めさせるための研究を続け、講演しています。

若い方の質問・意見を募っています。

- ・ 日時 10月15日(土) 午後1時30分～
- ・ 場所 ワークプラザ勝田
- ・ 演題 核のゴミと私たち

高濃度放射性廃液漏洩事故(6/2) 市民グループ 抗議文と質問状

県内脱原発市民グループ 20 団体が連名で 6/22、日本原電茨城事務所で、同社長宛てに抗議文と質問状を手渡しました。回答は文書で示し、テラパークでマスコミ公開の上、質疑応答の場を設けるよう要請中。

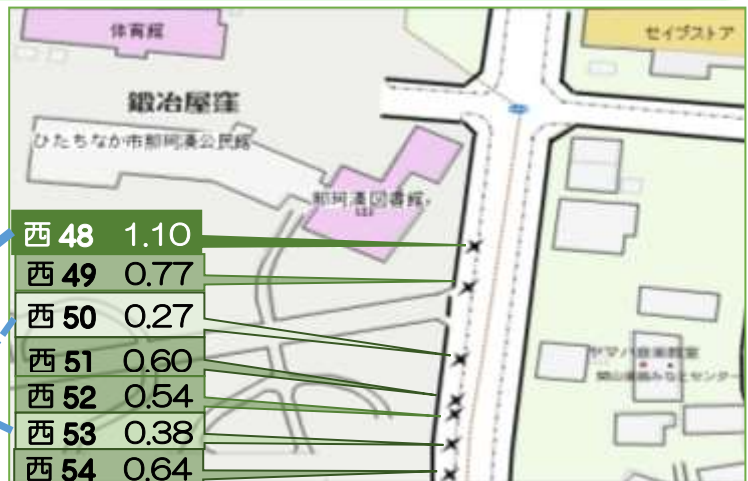
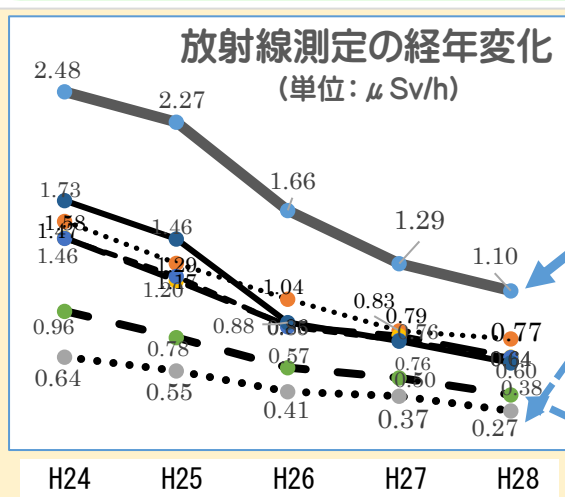
現在、判明していることは以下の通り。

- ・ 廃液漏れの原因はまだ原発が調査中で、原因特定できない。
- ・ 6月3日(県・東海村)、13日(県、9市町村)の立ち入り調査があった。液漏れ発見から通報までの経過を検証中。

慎重な調査が必要ですね、『廃液』漏れは (那珂湊、男性)

「6/2の東海第二原発での放射性廃液漏れ」って、原子炉からの水漏れではないのか？この「廃液」、強いガンマ線を出すコバルト 60 を含んでいるというから、運転していた時、原子炉の燃料を冷やしていた水。だから重要な原子炉が漏れていると考えてもおかしくない。廃液処理棟と原子炉建家はくっついている様だし、この液体の出どころが、まだ特定できてない。慎重な調査が必要だ。

放射線測定ボランティア・正治さんが、測ってみると？



- 1) 単位は $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト毎時)。
*「2011年の原発事故」前は $0.05 \sim 0.02 \mu\text{Sv/h}$ 。
- 2) 測定器は HORIBA PA1000 Radi ; 測定者は正治。

上のデータは、那珂湊コミセン付近の 7 本のケヤキそれぞれについて、高さ 50cm での測定値です。小学生通学路ですが、基準値の $0.23 \mu\text{Sv/h}$ を超えています。

セシウムからの放射線は、2012 年 4 月から 3 年後で約半分に減りました。でも今後は減速し、2019 年辺りからは半減するのに約 30 年かかると推定されます。樹木の根元に濃縮されがちなので要注意です。